



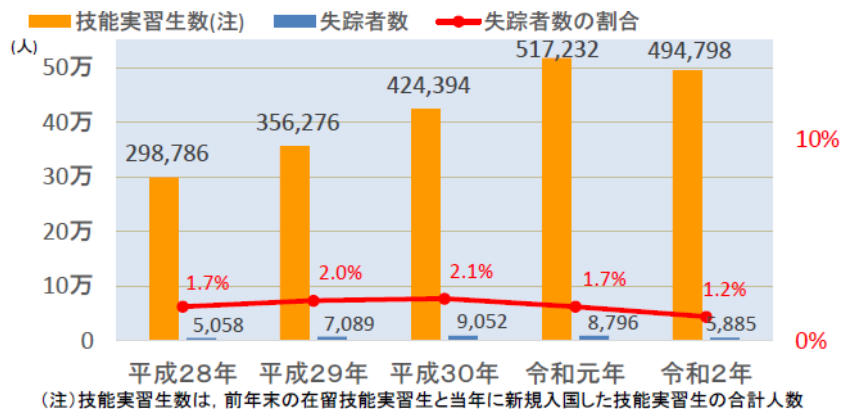
技能実習適正化支援センター（TITSC）代表の渡邊です。

TITSCのニュースレターは、約700の監理団体・実習実施機関宛てに配信しています。お蔭様で毎月、これまでに延べ15回のニュースレターを発行することができました。バックナンバーは、弊センターのホームページよりご確認くださいませ。8月号は、少し重いテーマですが、制度運用する上で避けて通れない失踪（技能実習生がある日突然、実習先から離脱し行方不明となること）について考察しています。「失踪0」は不可能ではない？その重要な3つのヒントをお伝えします。

1. 失踪（行方不明）についての考察

(1) 統計から分かること

2019年の在留資格「技能実習」の失踪者数は8,796人。失踪者数は、一昔前に比べて確実に増えていきます。数字だけ見ると約9千人も日本のどこかにいなくなってしまうの！？と心配になるのは無理ありません。コロナ禍で全国民にワクチン接種をしても、失踪者には当然ワクチンは行き届かないことから、社会の不安定要素に



もなります。したがって「失踪者数は5年前に比べ1.5倍」や、「過去5年間の失踪者数の累計は、約3万5千人」など、メディアでセンセーショナルに取り扱われ、技能実習制度の批判が繰り返されます。

しかし、「失踪率」に注目すると、実は約2%前後の推移で変化ありません。失踪率は、「失踪者数÷在留実習生数」の式で求められます。2019年の在留実習生数は約50万人と、5年前の倍近くの数です。在留者数が増えているので、失踪率が同じなら失踪者の数は当然大きくなります。オリンピック選手でも失踪します。制度が異なる中で正確な比較は困難ですが、雇用許可制を採用している韓国において失踪率は5%近くに上っているデータもあります。日本の技能実習制度の失踪率が、一定の率を保っているなら制度状況が悪化したとは言えないかもしれません。まずは、現状を正確に理解する必要がありそうです。

(2) 失踪する理由とは

なぜ技能実習生は、失踪するのでしょうか。失踪した技能実習生本人から理由を聞くことができないため、この質問の分析は難しいです。難しいですが、この問いは一方的でも考える必要があることだと思います。突然ですが、皆さんに質問です。日本の2019年の平均年収は436万円。外国で3年間働くことで1億3,000万円の収入になると言われたら、外国を目指しますか（日本とベトナムと平均年収の差10倍で計算）。言葉は通じないことに加え、生活習

慣や文化も異なる外国で暮らすことは大変な苦勞を伴うはずですが、それでも、多くの人が「行く」と回答します。もはや、外国から日本に来る人の流れを止めることはできません。

さらに質問します。法定の在留期限を超過して、5年間で日本の生涯年収に近い2億1,800万円を稼ぐことができるなら、皆さんは違法に失踪してまで在留を続けますか。このように考えると失踪を選択する人がいてもおかしくないと思えるかもしれません。こういった「構造要因」以外にも、「環境要因」、「企業要因」、「個人要因」が失踪の理由として挙げられます。

(3) 安易な理解

他方、失踪者が1人でもいることは、社会に不安をもたらします。「失踪0」の監理団体・実習実施者は存在しますが、失踪理由が分からない中、それがどれだけ難しいことか理解ができます。監理団体・実習実施者は、「失踪0」や失踪の再発防止を目指し、失踪対策して一般的に次のことを考えます。●実習生とのコミュニケーション促進、●送出し機関との連携強化、●職場・住環境の改善、●賃金UP、●ミスマッチをなくすための十分な事前の情報提供、●来日前の人選と教育の充実。

上記は、やらないよりは良いし、むしろ当然やるべきことと言えるかもしれません。一方で、実習生が失踪するのは「若いから」、「独身だから」、「在日親族がいるから」など差別的な考え方に陥る人もいます。また、日本人の若手人材の離職率も平均して3割以上だし、中小企業ではさらに高くなる傾向があるからや、外国では日本人の様に一つの会社に定年まで在籍することはないし、文化の違いがあるからとして、対策を諦めたかのような考え方も散見されます。

2. 「失踪0」にするための3つのヒント

ここで言えることは、失踪は実習生にとっても日本側にとっても良いことはあまりないということです。ではどうすれば良いのでしょうか。失踪防止の対策としては、事前の準備や目先の管理だけでなく、実習生が未来に目を向けることが一番効果的と感じています。これまでの経験を踏まえた重要な3つのヒントを下記にご紹介します。

(1) 1つ目のヒント：手帳の活用

日本人で手帳を持っていない社会人は少数派です。しかし、技能実習生には、手帳を持っていない人がかなりいます。手帳は自分の将来を計画するために役立つツールです。日々の積み重ねが将来につながっていると理解することもできます。実習生から、来日時に社長から手帳をプレゼントされ、手帳を使うことの重要性や意義に気づかされたと聞きました。母国では、予定どおりに進むことは稀で先の計画が立てられないことから、手帳を使うことはなかったとのこと。手帳を使うことは将来を可視化するだけでなく、日記をつけることで過去を振り返ることに役立つとのこと。毎日を漠然と過ごしていると、突発的に失踪してしまう実習生もいるかもしれません。日本に来た理由を再確認してもらい、どう在りたいか考え計画してもらうために手帳は効果的です。

私は、東日本大震災の被災者支援に際して、カレンダーを届けるボランティアを企画・実施しました。辛いことがあっても希望を持って前に進むには、将来の目標を立て、自分の将来を具体的に設計することが必要です。手帳は高価な物でなくても大丈夫です。来日した実習生に手帳をプレゼントしてみませんか。

(2) 2つ目のヒント：将来の夢

入国後の講習で、私は必ず実習生の将来の夢を聞きます。そうすることで、細かいことに惑わされることなく、広い視野でなりたい自分に向かって進んでくれることを願っています。将来の夢を考えさせ、そのためには何が必要か、どうしたらその夢を叶えることができるか考えてもらうことは失踪防止に役立ちます。そして実習期間は、日本でその夢に向かって「研修・実習」、自己実現する期間として考えます。実習生は一人ひとり立派で素敵な夢を抱いています。皆さんも、実習生の将来の夢を聞いてみませんか。夢を聞いて、その達成を支援してください。目標に向かって突き進む実習生に失踪は無縁です。また、夢を達成した実習生は、支援してくれた人に一生をかけて恩返しをしてくれるはずですよ。

(3) 3つ目のヒント：帰国後の支援

「失踪 0」の監理団体・実習実施者を分析すると、必ず現在ではなく未来に目が向いています。失踪させないために実習生をどのように管理するかに悩んでいません。どちらかと言うと「帰国後」の実習生について考えています。例えば、帰国後に元実習生を現地法人の管理職に登用し、自社の海外進出やネットワーク構築という全体の中で実習生を位置付けている場合です。また、監理団体の中には、実習期間中に積み立てたそれなりの「準備金」を起業資金として帰国した実習生に渡している例があります。それが、実習生の帰国の後押しになっています。他の監理団体では、帰国前に実習生による起業コンペを開催し、帰国後に発表されるコンペ優勝者に多額の賞金を用意しています。このように実習生の帰国後に目を向けて考えている監理団体が「失踪 0」を実現しています。

弊センターでは ZOOM を活用してオンライン相談ができる体制を整えています。接続リンクを送りますので、まずは下記のメールまたは電話からお気軽にご相談ください。

~~~~~

弊センターは、技能実習制度や入管手続きに詳しい行政書士、社労士による外国人技能実習制度を取扱う専門機関です。行政書士の全国ネットワークを活用した体制を整え、監理団体などの申請手続きを支援します。外国語にも対応できます。

弊センターでは監理団体及び実習実施者に向けさまざまなサービスを提供しております。

手数料一覧は、弊社ホームページをご覧ください。

- 機構計画認定申請と入管申請
- 建設キャリアアップシステム代理申請
- 外部監査
- その他（法的保護講習、各種労務関係手続き支援、相談、特定技能への移行）

~~~~~

技能実習適正化支援センター（Technical Intern Training Support Center）

代表 渡邊 奉勝

〒248-0023 神奈川県鎌倉市極楽寺 1-6-29

TEL/FAX：045-8787-290 携帯：090-4710-3790

E-mail：info@titsc.org URL：<http://www.titsc.org/>